



令和7年度国立市市民表彰 社会奉仕功勞



佐伯 薫氏

平成7年より、国立市防犯協会として、地域の安全・安心を守るため、防犯の啓発や見守り活動に取り組んでいます。関係機関や地域住民と連携し、犯罪の未然防止と安心して暮らせるまちづくりに尽力しています。

“30年、地域とともに” つなぐ防犯、守る暮らし

国立市防犯協会に入会したきっかけを教えてください

自治会・地区長を務めていた際にお声がけいただいたことがきっかけとなりました。当時は民生委員・児童委員も拝命しており、日頃から地域の皆さまの暮らしや安全に関わる機会が多かったことから、地域のためにお役に立てればと思い、お引き受けしました。以来、地域防犯活動に携わり、今年で30年目を迎えております。

ご自身が国立市防犯協会で行ってきた主な活動について教えてください

防犯協会では、立川警察署と連携しながら、オレオレ詐欺をはじめとする各種詐欺被害の防止に向けた広報活動を行ってまいりました。

近年は特殊詐欺やSNS型投資詐欺、口マンズ詐欺の被害、さらには悪質な訪問業者による被害が増加していることから、立川市防犯協会と合同で立川駅コンコース、立飛、国立駅周辺等において広報活動を実施しています。

また、青色防犯パトロール車（以下、青パト）による国立市内巡回を行い、地域の安全確保に努めるとともに、女性のみで構成される警察業務補助員である「ポリス

メイト」として、警察業務への協力など、地域に寄り添った防犯活動に取り組んでまいりました。

活動している中で意識している事を教えてください

活動を行う中で意識しているのは、地域の状況や人それぞれの事情に配慮しながら、無理のない形で防犯活動を継続していくことです。

防犯協会の会員には高齢の方が多く、将来を見据えて世代交代の必要性を感じており、若い方々にも参加していただきたいと考えています。仕事や子育てなどで忙しい現状もあるため、焦らず長い目で取り組んでいきたいと思っています。

また、地域によっては防犯活動への協力をお願いすることが難しい場合もありますが、そのような状況も踏まえながら、できる範囲で理解と協力を得られるよう心がけ、地域に寄り添った活動を大切にしています。

国立市や国立市民の防犯意識について教えてください

防犯意識については、自治会活動が活発であれば、地域全体で防犯意識を高めることができると思いますが、近年は自治会自体が衰退している地域も多く、十分な協力を得ることが難しい状況があります。

現在は、警察署から配布される防犯に関するチラシを回覧板で回すなど、限られた方法での周知が中心となっているのが実情です。

そのような中でも、防犯協会では青パトに乗り、市内を巡回する活動を継続しており、地域の皆さまに防犯意識を喚起するうえで一定の効果があると感じています。

また、地区ごとに登下校の見守り活動を行い、子どもたちが安心・安全に通学できる環境づくりにも取り組んでいます。市や警察、地域と連携しながら、今後も継続的な防犯意識の向上に努めてまいります。

今後の国立市防犯協会について教えてください

防犯協会の会員が一丸となり、引き続き地域の安全確保に取り組んでいきたいと考えています。また、防犯対策の強化として、防犯カメラの設置について市にお願いし、設置個所の拡充を図っていきたくと思っています。

毎年立川国立防犯協会として、1年ごとに交代で防犯フェスティバルを立川警察署と連携し、行っており、今年も国立市で10月7日にFSXホールにて行いました。当市ではオレオレ詐欺の被害も多いことから、この行事を老人会の方々にも参加を呼びかけ、防犯意識の向上につなげていきたいと考えています。